

## 指針に基づく情報公開

放射線影響研究所では、個人情報保護法に基づく研究倫理指針を遵守し、この研究については、対象となる方のお一人ずつに直接説明を行い同意を得る代わりに、情報を公開することにより試料・情報を利用させていただいています。

研究成果は学会や学術誌等で発表されますが、お名前、ご住所などの情報が公表されることはありません。

研究計画書番号	RP-S2-18
研究課題名	原爆被爆者寿命調査における肺がん放射線影響推定への受動喫煙曝露の影響
研究責任者（所属）	フュー・オードリー（ワシントン大学 疫学部）
放影研での研究責任者	坂田 律
試料・情報の利用目的及び 利用方法	<p>利用目的：</p> <p>現在までの研究で、女性の放射線に関連する肺がん罹患リスク（肺がんに罹る危険性）は男性に比べて高いという結果が得られています。肺がんとの関連が大きい喫煙の影響を考慮した放影研寿命調査集団における最新のがん罹患リスク研究でも同様の傾向がみられました。しかし、この研究では、対象者本人の喫煙の影響は考慮されていますが、受動喫煙の影響は考慮されていません。寿命調査対象者では女性はほとんどが非喫煙者ですが、男性の喫煙率は高いため、同集団の女性は高い受動喫煙に曝されていると予想されます。同集団には本人の喫煙の情報はありますが、受動喫煙についての情報はわずかしか得られていませんので、非喫煙者の受動喫煙曝露状況を推定し、それを考慮に入れた解析をすることで、女性の放射線に関連する肺がん罹患リスクがどのように変わってくるかをみます。</p> <p>利用方法：</p> <p>この研究には、寿命調査集団を対象としたがん死亡ならびに罹患研究用いられている情報を使用します。従って、新たな情報の収集はありません。放射線曝露と肺がん罹患リスクおよび死亡リスクの関連における受動喫煙曝露の役割を次の方法で調査します。</p> <p>（1）非喫煙者に限定した解析</p> <p>対象を非喫煙者のみに限定した解析を行って、全対象者で行った解析で見られた放射線関連肺がんリスクが男性に比べて女性で高いという傾向がみられるか調べます。</p> <p>（2）受動喫煙変数を代入した模擬実験</p> <p>男性の喫煙習慣と、出生年および到達年齢による喫煙習慣の変化、また、婚姻状況、教育、職業、および、被爆時年齢といった受動喫煙の曝露を推定するために有益であると思われる情報に基づいた模擬実験を行い、それによって受動喫煙曝露についてのデータを代入します。代入を行っ</p>

	たデータを肺がん罹患および死亡のリスクの上昇をみるモデルに組み込んで受動喫煙曝露影響の調整に用います。さらに、以前の結果と比較可能な解析を行うため、これらの代入を行ったデータを、近年発表された解析において用いられているバックグラウンド率およびリスクの上昇を観察するモデルに適用します。
他の機関への提供の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有（提供先機関：米国ワシントン大学） <input type="checkbox"/> 無
利用し、又は提供する 試料・情報の項目	<p>寿命調査集団の肺がん死亡（1950-2003）および罹患（1958-2009）データ</p> <p>（ア） 放影研が保有する情報：被爆都市、性別、生年月、死亡年月、肺被曝線量、郵送調査回答年月、喫煙状況、喫煙年数、一日喫煙本数、婚姻状況、教育、および、職業</p> <p>（イ） 広島・長崎の地域がん登録情報：がん診断年月、肺がんおよびその他のがんの診断についての標識変数</p> <p>対象者の匿名性を保つため肺被曝線量は有効数字3桁に丸め、生年月日、がんの診断年月日、死亡年月日は年月までとし、日付は提供されない。</p>
利用する者の範囲	<p>ワシントン大学</p> <p>    フュー・オードリー</p> <p>    バティ・パーヴィーン</p> <p>    カー・キャサリン</p> <p>    フィップス・アマンダ</p> <p>    バックワルト・ブランディー</p> <p>放射線影響研究所</p> <p>    坂田 律</p> <p>    フレンチ・ベンジャミン</p> <p>    グラント・エリック</p>
試料・情報の管理に責任を 有する者の氏名又は名称	フュー・オードリー（ワシントン大学 疫学部）
統括個人情報保護管理者	放射線影響研究所 業務執行理事 児玉和紀
問い合わせ先	<p>【研究担当者】</p> <p>氏名：坂田 律</p> <p>公益財団法人 放射線影響研究所 疫学部</p> <p>住所：広島市南区比治山公園 5 番 2 号</p> <p>TEL：082-261-3131</p>